

自治體の正體

一

私建は常に自主自治を主張する。けれども之れは市町村制上の所謂自治と同意義のものではない。市町村制の自治は名は自治と云ふも實は國家權力行使の一種式に過ぎない。權力の行使なるが故に常に支配階級の權力を侵襲するが如きことは許さるべきものでない。

二

私建は自主を主張する、自治を要求する。私建のことは私建である。

私建は常に彼等に侵襲され、支配されて居る。他人に押取られて居る。

押取階級、支配階級は益々容易に、益々安全に其押取、其支配を繼續せんと工夫を盡らしつゝあるのだ。彼等には

つゝあるのだ。

三

私建の仲間には、其押取、其支配を免かるゝの道として



學者がある。智者がある。私建は常に彼等に侵襲され、胡化されて来た。そして今も尚ほ侵襲され、胡化され

先づ手近かな町村自治體を乗取れと云ふものがある。言葉だけ、文字だけで、町村會を乗取り、村長、助役、書記

等を私建の仲間から出す、云ふことを見ると、實に私建の村が出来たやう、私建の自治體のやうだ。だがね、そして取る事柄は何んであるかと云へば尚ほ、押取階級、支配階級の爲めの押取と支配とを代行するに過ぎない。成程、彼等の手で支配、押取するよりは多少の手心はあらう。だけれど、

私建の仲間であらうと、但しは彼等支配階級の奴等であらうと、たいした相違の出来得べき筈のものでない。

若し夫れ自治體で小文字に偽藏され、自治體で美名に迷ひ、自治體を乗取つたと云ふ氣持で、涼しい顔をして押取階級の爲め、支配階級の爲めに、其事務を取り、それで我等がこと半ば成れるが如く思ふ様なことがあつては、それこそ、権柄を取り替へて、奪取の形骸である。殊に況んや、自治體を乗取るに多大の犠牲

と努力とを支持はぬばならぬのだ。私建は罷じて、こんな馬鹿なことに苦心してはならない。

私建は自主を主張する、自治を要求する。他人の支配、他人の押取から解放されんことを要求する支配階級、押取階級に代りて、其支配、押取を行ふてやることではない。で妥協してはならない。私建のことは私建でやる。

道あるのみ。私建の敵は強大である。彼等は實に術巧で、胡化しが上手である。其トトリである。私建の父祖等は、この爲めに、百た彼等は實に村のことは村でやつて来たのだ。私建はそれを取違さなくてはならない。